

【概要】

7. 陸産・淡水産貝類

鳥取県産の陸産・淡水産貝類は現在約171種（亜種を含む）が記録されている。今回のレッドリストには、陸産貝類24種（前回20種）、淡水産貝類20種（前回14種）の計44種（前回34種）が選定され、うち11種（前回8種）が絶滅危惧種（Ⅰ類とⅡ類）となっている。

前回のリスト掲載種のうち、今回リストからはずれた種はマルドブガイとドブガイである。前者は琵琶湖固有種であるため、後者は、分類学的再検討がなされ、ヌマガイとタガイの2種に分類されたため（近藤ほか、2006）、後者2種は今回それぞれ準絶滅危惧と絶滅危惧Ⅱ類としてリストに掲載された。

次に、今回まったく新しくリストに掲載された種は次の10種である：ミズゴマツボ、ヒラマキガイモドキ、ヒラマキミズマイマイ、トンガリササノハガイ、マツカサガイ、フネドブガイ、ナガオカモノアラガイ、カサネシタラ、コウロマイマイ、コベソマイマイ。このうち最後の4種は陸産、他は淡水産の貝類で、最初の3種とナガオカモノアラガイは国土交通省がおこなっている河川水辺の国勢調査、あるいは鳥取西道路建設にともなう環境アセスメントで生息が新たに確認されたものである。

陸産貝類の選定種は、生息地が局限されている種がほとんどである。とりわけクビレイトウムシオイガイとヒョットコイトウムシオイガイは、鳥取県内で前者は1カ所、後者は近接する2カ所が既知の生息地のすべてという鳥取県固有亜種（両者をあわせると鳥取県固有種）である。かわ

った殻形が特徴の稀種であり、採集圧が心配される。

淡水産貝類は、圃場整備や改修工事、水路の不十分な管理などによる生息環境の悪化が著しく、カラスガイ、フネドブガイ、マツカサガイ、ニセマツカサガイなどは生息地が限定されている。このうち、湖山池のみで生息が確認されているカラスガイは、前回のリスト選定後、鳥取県特定希少野生動植物に指定され、保護の方法が模索されている。これらのイシガイ科二枚貝の幼生は、ヨシノボリ類に寄生する。また、成貝はタナゴ類の産卵母貝としても利用されており、生息環境の改善にあたっては、これら3者の生活史を考慮した保全策が求められる。

マルタニシは、かつては食用にされるほど水田や用水路などに多くみられたが、乾田化や圃場整備、農薬による水質悪化などにより減少している。

マメシジミは、大山の山頂付近の池に生息していたが、当地では池の消長による絶滅が危惧される。その後、江府町鏡ヶ成の小川で採集されているが、現状は現在でも依然として不明で、生息しているとしても危険な状況にあるものと考えられる。

（谷岡 浩・福本一彦・鶴崎展巨）

■引用文献

近藤高貴・田部雅昭・福原修一（2006）ドブガイに見られる遺伝的2型のグロキディウム幼生の形態. VENUS, 65: 241-245.



ナガオカモノアラガイ



コウロマイマイ（撮影：鶴崎展巨）



カラスガイ

イシマキガイ アマオブネガイ目アマオブネガイ科

Clithon retropictus Martens, 1879

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



撮影：宇野 明

■**選定理由**：県下での生息水域が限られ、河川改修や浚渫などにより、生息地が消滅する可能性がある。

■**特徴**：殻高は約20 mm，楕円形で殻口側はやや平らとなる。殻口は半月形で大きく，殻径のほぼ半分を占める。暗緑色の殻には三角形の小斑点があり，蓋は石灰質で半円形，河口の汽水域から淡水域に生息し，河底の石や沈水物に付着している。

■**分布** 県内：鳥取市（細川，千代川，河内川），湯梨浜町（東郷池），琴浦町（勝田川）。県外：本州中部以南。

■**保護上の留意点**：生息地での個体数が多いが，河川改修等による地形や水量の変化，上流からの土砂堆積等は本種の生息，繁殖に影響をおよぼすと考えられる。護岸や改修などの方法に配慮が必要。

■**文献**：9, 41.

執筆：宇野 明・谷岡 浩

アツブタガイ 原始紐舌目ヤマタニシ科

Cyclotus (Procyclus) campanulatus campanulatus Martens, 1865

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



撮影：宇野 明

■**選定理由**：西日本に広く分布するが本県における生息地は西部に偏り，琴浦町以東での発見はない。個体数も他の地域と比較して少ない。

■**特徴**：殻高約10 mm，殻径約13 mm。濃い茶褐色で光沢のあるパイプ状の螺管を低円錐状に巻く。殻口は正円形で多旋形の厚い石灰質の蓋をもつ。

■**分布** 県内：琴浦町（太一垣，尾張，船上山）。大山町（名和町）西坪，（中山町）中山神社，松河原神社，（大山町）佐摩。米子市（淀江町）本宮，稲吉。伯耆町（溝口町）大蔵，南部町朝金，日野町（黒坂，根雨，滑）。県外：本州以南，屋久島，種子島。

■**保護上の留意点**：生息が激減している場所もあるので生息地の自然林や社叢の保全による個体群の維持が必要。

■**文献**：9, 15.

執筆：谷岡 浩

アズキガイ 原始紐舌目アズキガイ科

Pupinella (Pupinopsis) rufa (Sowerby, 1864)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



撮影：谷岡 浩

■**選定理由**：本州中部以西に広く分布するが，山陰地方では生息地は少なく個体数も他の地域と比較して少ない。県内の生息地は4カ所のみで，環境が激変すれば絶滅の可能性はある。

■**特徴**：殻形，色彩ともにアズキに似る。殻は厚く殻高は約10 mm。殻口は円形で周縁部は肥厚して反転し，内唇の前後に溝がある。蓋は革質で円くて厚い。

■**分布** 県内：湯梨浜町（東郷町）漆原，三朝町三徳山，琴浦町（赤碕町）船上山，日野町漆原。県外：本州（長野県以西），四国，九州。

■**保護上の留意点**：東郷町漆原では生息地の社叢の環境変化（下草刈り手入れなど）と採集圧によりほぼ絶滅状態にある，同地はもとより他の生息地とともに環境保全と乱獲に注意が必要。

■**文献**：15, 44.

執筆：谷岡 浩

ミヤコムシオイ 原始紐舌目ムシオイガイ科
Chamalycaeus hirasei Pilsbry, 1900

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



撮影：宇野 明

■**選定理由**：県内に10数カ所の生息が確認されているが、局所的でかつ個体数も少ない。

■**特徴**：殻高約3 mm，殻径約4.5 mm。扁平な円錐形で殻頂が多少突出する。殻口はやや下向きに開き丸く反転し、殻口の後方はややくびれる。殻色は淡赤茶色で老成すると灰白色になる。本種は山地に限られる。

■**分布** 県内：鳥取市（国府町：雨滝，鳥越），八頭町（郡家町）落岩，三朝町福吉，琴浦町（赤碕町）船上山，大山町（大山，大山寺佐摩），米子市（淀江町）稲吉，伯耆町漆谷，江府町俣野，南部町（金山，鎌倉山），**県外**：近畿地方から紀伊半島。

■**保護上の留意点**：生息基盤として落ち葉の堆積や適度な湿度を必要とするため、開発による環境変化の影響を受けやすい。生息地や神社社叢や周辺自然林の保全が望まれる。

■**文献**：9, 15.

執筆：谷岡 浩・宇野 明

クビレイトウムシオイガイ 原始紐舌目ムシオイガイ科
Chamalycaeus (Sigmacharax) nakashimai nakashimai Minato, 1987

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧I類 (CR+EN)



撮影：矢野重文

■**選定理由**：タイプ産地以外のどこからも記録がなく、個体数もきわめて少ない。鳥取県固有種・固有亜種。

■**特徴**：貝殻は小型（殻経3.6–3.9 mm），低円錐形，背面観では卵形で、臍孔が開く。螺層は4.5層。体層の2/3の部位が著しくくびれ，それに続く螺管は初めから下降するが，すぐ上昇し，さらに再び急に下降してついに底面に向かって殻口に至る。くびれた部分の直後，螺管の底面は強く突き出して膨れる。底唇の背後は深い溝状になる。呼吸管は多少細長い。

■**分布** 県内：三朝町鉛山（タイプ産地）。**県外**：なし。

■**保護上の留意点**：本亜種はスギ植林地の斜面の林床のスギ落ち葉層や小石が混じる腐食土の中に生息するが，生息数は少ない上に，生息地域の面積もきわめて狭い。タイプ産地は将来的にはスギ等の伐採による環境の改変も予想されるので，何らかの保護対策が望まれる。

■**文献**：33, 35.

執筆：湊 宏

ヒョットコイトウムシオイガイ 原始紐舌目ムシオイガイ科
Chamalycaeus (Sigmacharax) nakashimai ditacaeus Minato & Yano, 2000

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧I類 (CR+EN)



八頭町落岩 1999.1.10/撮影：増田 修

■**選定理由**：生息地域は八頭町の2カ所しか知られていない。またそれらの地域では個体数も非常に少ない。採集圧とイノシシによる林床の攪乱によって生息環境が悪化して絶滅が危惧されている。鳥取県固有亜種。

■**特徴**：貝殻は小型（殻経3.7–4.6 mm），低平な円錐形，淡黄褐色で半透明，背面観では卵形。螺層は4.5層。呼吸管は長さ約1 mm。臍孔は体層の底螺層の張り出しに覆われ，ほとんど閉じられて小さいこと，頸部が伸長していることが本亜種の特徴（原名亜種からの識別ポイント）である。

■**分布** 県内：八頭町落岩（タイプ産地），上津黒。**県外**：なし。

■**保護上の留意点**：本亜種の生息地は比較的湿った落ち葉堆積中であるが，イノシシの侵入による林床の攪乱が顕著であるから，その対策を考えると，乱獲防止と生息する自然林の保護がきわめて重要。

■**文献**：36.

執筆：湊 宏

オオゴマガイ 原始紐舌目ゴマガイ科

Diplommatina (Sinica) labiosa hirasei Pilsbry, 1909

鳥取県：その他の重要種(OT)

環境省：—



撮影：増田 修

■**選定理由**：イブキゴマガイ *D. (S.) labiosa labiosa* Martens の山陰北西部に分布する亜種で、鳥取県の西部は別亜種のおおうエゴマガイ *D. (S.) labiosa tenuiplica* Pilsbry (兵庫県西部～鳥取県東部に分布) との移行帯となる。

■**特徴**：殻高約4.5 mm，殻径約2-3 mm。日本産ゴマガイの最大種である。殻は長卵型で、殻頂は鈍く尖る。殻口は丸く、周縁部は反転し二重になる。殻色は成貝では赤橙色～淡黄色，幼貝では白色，老成貝は汚白色になる。殻表には明瞭で規則的な成長肋があるが、殻口近くでは弱くなる。

■**分布** 県内：鳥取県西部～三朝町。県外：中国地方北西部。

■**保護上の留意点**：山地の自然林や社叢の保全が重要。県西部では広く分布しているが、いずれも局所的。生息によっては多くの個体がみられ、現状は安定していると思われる。

■**文献**：9, 15.

執筆：宇野 明・谷岡 浩

マルタニシ 原始紐舌目タニシ科

Cipangopaludina chinensis laeta (Martens, 1860)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



撮影：宇野 明

■**選定理由**：全国的に生息地が急激に減少している。県内での記録は少なく、6カ所のみが確認されているにすぎない。

■**特徴**：殻高約40 mm，殻径約35 mm，丸みの強い円錐形で、周縁はよく膨らみ各層のくびれは明瞭である。殻表は通常藻や泥などの付着物に覆われているが、殻は暗緑色で光沢があり、数本の刻点列の彫刻がある。殻口の周縁は黒く縁取られる。雌雄異体，卵胎生で直接幼貝を産出する。

■**分布** 県内：鳥取市(叶，本高，越路)，岩美町大谷，智頭町中田，湯梨浜町東郷池。県外：北海道以南から九州。

■**保護上の留意点**：かつてはどこの水田にも多数生息していたが、農薬などによる水質悪化や水田耕作法などの変化に伴い全国的に著しく減少している。生息地の環境保全とともに休耕田等を活用した湿地環境の保全やビオトープづくりなどによる保全が望ましい。

■**文献**：9.

執筆：谷岡 浩

オオタニシ 原始紐舌目タニシ科

Cipangopaludina japonica (Martens, 1860)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



撮影：宇野 明

■**選定理由**：県内で確認された生息地は9カ所のみ。生息地が閉鎖的な環境であるため、変化による生息地の消滅が懸念される。

■**特徴**：本邦産の淡水巻貝で最大種，殻高は70 mmに達するものがある。殻はマルタニシに似るが螺層の膨らみは弱く縫合は浅くて周縁が角張り，上部の螺層にも2-3本の弱い角が見られる。殻色は黒っぽい茶褐色で弱い光沢がある。殻口は卵型で革質の蓋をもつ。流水の少ないため池や湖沼などの止水域の泥底に生息，雌雄異体で卵胎生。

■**分布** 県内：鳥取市(湖山池，多鯨ヶ池，上野，玉津，越路)，岩美町(岩美，大谷)，智頭町中田，湯梨浜町東郷池。県外：本州東北地方以南，四国，九州。

■**保護上の留意点**：池や沼などの閉鎖的な水域に生息するので，水質汚濁などの生息環境の激変がおきると激滅もしくは消滅するおそれがある。

■**文献**：11.

執筆：谷岡 浩

ヤマメタニシ 新生腹足目イツマデガイ科
Blanfordia integra Pilsbry, 1924

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



撮影：宇野 明

■**選定理由**：県内では2カ所しか生息地が確認されておらず、個体数も少ない。

■**特徴**：殻は丸みのある円錐形で殻高約5 mm，殻径約3 mm。殻表は淡い緑褐色で鈍い光沢がある。殻口は楕円形で薄い蓋がある。臍孔は狭いが開いている。やや標高のある山地の自然林内の礫や落葉中，または低木の葉の裏（アオキ等）に付着している。

■**分布** 県内：大山町大山寺，若桜町氷ノ山， 県外：秋田県以南，鳥根県までの日本海側，伊吹山，箱根，天城山。

■**保護上の留意点**：国内的に見ても産地が少なくきわめて貴重種。本県での生息地はいまのところ環境は保全されていて生息も確認されているが，向後にわたる環境の保全が肝要。

■**文献**：9, 15.

執筆：谷岡 浩・宇野 明

カワグチツボ 新生腹足目カワグチツボ科
Iravadia elegantula (A. Adams, 1863)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



撮影：宇野 明

■**選定理由**：県下で確認されている生息地は1カ所のみである。生息地の汽水域は減少しており，とくに保護を要する。

■**特徴**：殻高4-5 mm，殻径2 mm。殻は微少で細高い円錐形。殻色は黄褐色であるが，通常は付着物に被われて黒く見える。河口汽水域に着生している緑藻に付着している。新加茂川河口ではコウロエンカワヒバリガイ *Xenostrobus securus* (Lamarck) (移入種) やウネナシトマヤガイ *Trapezium liratum* (Reeve) とともに確認された。

■**分布** 県内：米子市加茂川河口 (中海)。 県外：瀬戸内海沿岸，九州。日本海南部の河口水域。

■**保護上の留意点**：移動能力が乏しい種なので，生息地の改修や化学物質による水質の汚染，上流からの土砂の流入などが生息に深刻な影響を与えると考えられる。確認地点が少ないので，さらなる現状調査が必要。

■**文献**：8, 25.

執筆：宇野 明

ミズゴマツボ 新生腹足目ミズゴマツボ科
Stenothyra japonica Kuroda, 1962

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



撮影：谷岡 浩

■**選定理由**：全国的に分布が少なく，県内での確認は1カ所のみ。河川改修や浚渫などにより生息地が消滅する可能性がある。

■**特徴**：緑褐色の卵形の殻を有し殻高は約5 mm，体層は大きくふくれ殻高の2/3以上を占めるが，殻口はすぼみ円形で蓋がある。各縷塔には10列内外の刻点烈が見られ，とくに体層では明瞭である。本種は感潮域を好み，水質のあまりよくない淀みにも見られる。

■**分布** 県内：岩美町大谷。 県外：本州の太平洋側では岩手県以南，日本海側では新潟県以南，四国，九州にも分布するが希少である。

■**保護上の留意点**：生息地の河川感潮域に生育する抽水，沈水植物の刈り取りや河底の堆積泥などの浚渫に注意。

■**文献**：14, 28.

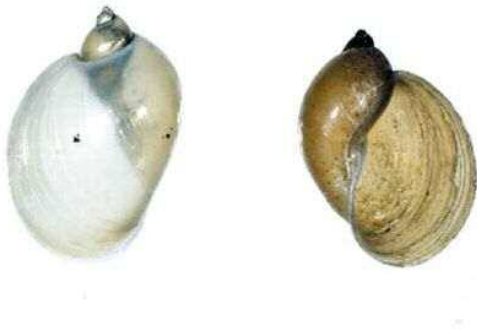
執筆：谷岡 浩

モノアラガイ 基眼目モノアラガイ科

Limnaea auricularia (Linnaeus, 1758)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



撮影：宇野 明

執筆：谷岡 浩

■**選定理由**：県内で確認された生息地は5カ所のみで、全国的にも生息地が減少しつつある。

■**特徴**：殻高20 mm。卵円形で体層がよく発達して大きく、螺塔は急に縮まり殻頂が小さく突出する。殻口はきわめて広く全体の8割ほどを占める。殻は半透明でうすく生体の斑模様が透けて見える。水底の水草や礫などに付着しているが、ときおり水面を反転して匍匐することがある。産卵期にはゼラチン状の卵塊を産む。

■**分布** 県内：岩美町大谷、鳥取市（湖山池周縁部、気高町日光）、八頭町（八東町）徳丸、湯梨浜町東郷池、**県外**：北海道・本州・四国・九州。

■**保護上の留意点**：池沼や水田、用水路など人間の生活圏に近い水系に生息しているので、人為的な影響を蒙りやすい、近年外国産の近似種が進入し生息への影響が懸念されるので生息地を注意深く見守る必要がある。

■**文献**：11.

ヒラマキガイモドキ 基眼目ヒラマキガイ科

Polypylis hemisphaerula (Benson, 1842)

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



兵庫県加西市産標本／撮影：増田 修

執筆：谷岡 浩

■**選定理由**：県内での生息水域が限られ、生息環境の改変による影響を受ける恐れがある。

■**特徴**：殻径約5 mmで茶褐色の円盤状に平たく巻いた殻をもつ、螺塔は殻の中心部に向かって凹むように巻き、殻頂部は浅く陥没する。殻底は平らで臍孔は狭くて深い。体層の内部には数本の畝状の内突起物があり殻を通して底面から透けて見える。

■**分布** 県内：鳥取市（千代川、国府町袋川）、倉吉市（天神川、小鴨川、国府川）、三朝町三徳川。**県外**：本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：生息する河川や用水路等の改修や護岸整備など生息環境の改変は、生息維持に影響を与えるので、工事を行うときは改修方法に配慮が必要。

■**文献**：13, 28.

ヒラマキミズマイマイ 基眼目ヒラマキガイ科

Gyraulus chinensis Dunker, 1854

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：情報不足 (DD)



兵庫県吉川町法光寺産標本／撮影：増田 修

執筆：谷岡 浩

■**選定理由**：県内での生息が確認された水域は2カ所のみ。生息水域の改変などにより生息維持に影響を与える恐れがある。

■**特徴**：殻径約6 mmの平たい殻をうず巻き状に巻くが、螺塔は中心部に向かって凹み、殻頂は浅く陥没している。ヒラマキガイモドキに似るが臍孔は広く開き、体層の周縁に角があるので区別できる。本種は池沼や湖、水路、水田などの止水域を好む。

■**分布** 県内：鳥取市千代川、国府町袋川。**県外**：日本全国；台湾、朝鮮半島、中国大陸。

■**保護上の留意点**：千代川、袋川共ワンドやヨシの茂みなどの止水域に生息しているので、護岸改修や浚渫などの影響を受け易い。改修を行うときは工事方法に配慮が必要。

■**文献**：13, 28.

ナガオカモノアラガイ 柄眼目オカモノアラガイ科
Oxyloma hirasei (Pilsbry, 1901)

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



撮影：増田 修

■**選定理由**：水際の湿潤環境に生息。水田整備など水辺環境の改変により、全国的に生息が減少。県下での確認例は少ない。

■**特徴**：殻高約13 mm，殻径約6 mmの半透明で淡黄褐色の薄質の殻をもち，軟体が透ける。体層部は急に増大し，殻口は殻高の3/4ほどを占め，螺塔は小さく突出する。モノアラガイに似るが殻口は細長い。水中に入ることではなく，側溝の側壁面や岸辺の草などに付着している。

■**分布** 県内：岩美町大谷。県外：北海道，四国，九州。

■**保護上の留意点**：水田や周辺用水路，側溝など人間の生活圏に近い水系の水辺に生息する種なので，人為的な生息環境の改変の影響を受けやすい。生息地の保全と他地域の生息状況の調査が必要。

■**文献**：13, 14.

執筆：谷岡 浩

コウロマイマイ 柄眼目オナジマイマイ科
Euhadra latispira yagurai Kuroda & Habe, 1949

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



撮影：谷岡 浩

■**選定理由**：分布域が限定され，個体数も減少傾向にある。

■**特徴**：クリーム色の低円錐形の殻をもつ大型種，殻高27 mm，殻径45 mm内外で無帯型が多く，有帯のものは0204の色帯が多い。本種は北陸地方に分布するハクサンマイマイの亜種とされているが，近年のミトコンドリアDNA解析の結果，サンインマイマイの近縁種と判明し，別種である可能性が示唆された。本県の東部の山地には比較的多産するが中部に向かって寡産となり，天神川で途切れて分布の西限と考えられていたが，日野郡日野町の漆原で発見されたことは注目に値する。

■**分布** 県内：東部一円から三朝町小河内まで，日野町上菅漆原。県外：兵庫県，岡山県。

■**保護上の留意点**：里山周辺に生息する種で，土地の造成や開拓により，近年急速に減少している，里山や自然林，社叢などの環境保全が必要。

■**文献**：15, 40, 47.

執筆：谷岡 浩

コベソマイマイ 柄眼目ナンバンマイマイ科
Satsuma myomphala (Martens, 1865)

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



撮影：谷岡 浩

■**選定理由**：本州中部以西に広く分布するが，稀産種。県内の既知産地は千代川の中流に沿った地域に限定されるが，生息状況についてはさらに調査が必要。

■**特徴**：淡黄白色の低円錐形の殻をもつ大型種。殻表は滑らかでうすく，生体の模様が透ける。周縁部に赤褐色の色帯があり，臍孔は完全に閉じる。臍孔が閉じないサンインコベソマイマイは最近まで本種の亜種とされてきたが，両種が千代川中流域で中間型なしに同所的に分布することは，両種が別種であることを例証している。

■**分布** 県内：鳥取市用瀬町（用瀬，別府），智頭町（智頭，篠坂）。県外：中部以西，四国，九州。

■**保護上の留意点**：サンインコベソマイマイと同所的となっている千代川中流域の産地は，学術的にも貴重である。生息場所の自然林の環境保全が必要。

■**文献**：28, 32, 46.

執筆：谷岡 浩

クリイロキセルガイモドキ 柄眼目キセルガイモドキ科

Mirus andersonianus (Moellendorff, 1885)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



撮影：谷岡 浩

■**選定理由**：全国的に分布が限られており，県内でも少数のブナ林に生息が限定されている。

■**特徴**：キセルガイモドキに似るが螺塔は鋭三角錐状となり，殻は濃い栗色で光沢がある。北陸から山陰地方のものは，ブドウ酒色で殻口内が紫色の大型となり，エチゴキセルガイモドキと称したが，地方型にすぎず同じものである。おもにブナの原生林の樹幹に生息している。

■**分布** 県内：鳥取市雨滝，三朝町三徳山，琴浦町船上山，大山町大山。県外：北海道，本州（おもに関東以西，分布南西限は広島県三段峡）。

■**保護上の留意点**：おもにブナの樹幹に生息するので，ブナ林の保護が必要。

■**文献**：15. 45.

執筆者：谷岡 浩

フトキセルガイモドキ 柄眼目キセルガイモドキ科

Mirus japonicus japonicus (Moellendorff, 1885)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



撮影：谷岡 浩

■**選定理由**：おもに本州中部以西に分布しているが希少，本県での生息地は限られ局所的で個体数も少ない。

■**特徴**：殻はずんぐりと太く肥大した長楕円形で殻高約30 mm，殻径約13 mm。栗褐色を呈し光沢がある。本邦産キセルガイモドキ中最大となる。

■**分布** 県内：鳥取市国府町雨滝，倉吉市打吹山，大山町大山（川床，金門，榎水原），日南町船通山。県外：本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：自然環境の良好な山地の自然林に生息するので自然林の保護，保全が必要。

■**文献**：15.

執筆者：谷岡 浩

キセルガイモドキ 柄眼目キセルガイモドキ科

Mirus reinianus (Kobelt, 1875)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



撮影：谷岡 浩

■**選定理由**：西日本の日本海側での記録は少なく，県下では非常にまれ。生息地が局限され，環境の悪化によって絶滅のおそれもある。

■**特徴**：キセルガイ類に似るが，キセルガイが左巻きに対して本種は右巻きで殻高約28 mm，殻径約8 mmで蛹形の螺塔を有し，殻口の唇縁は白色で厚く反曲している。

■**分布** 県内：鳥取市佐治町津無，大山町大山，赤碕町船上山。県外：北海道南部，本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：自然環境の良好な山地の自然林や社叢に生息しているので，生息場所の環境保護，保全が必要。

■**文献**：15.

執筆者：谷岡 浩

オオギセル 柄眼目キセルガイ科
Megalophaedusa martensi (Martens, 1860)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



撮影：増田 修

■**選定理由**：県内における生息確認は数カ所にすぎない。しかも個体数は少ない。関東地方西部から中国地方東部、四国東部まで分布するが、鳥取県はその分布西限域の集団として重要。

■**特徴**：貝殻は重厚で大型（殻高36–45 mm，殻経8.5–12 mm），紡錘形状。殻色は紫褐色～淡褐色と変異に富む。螺層は10–11層。体層の内部に腔襞が5–7個並ぶ。本種は世界最大のキセルガイ科貝類。別名はマルテンスギセル。卵生。

■**分布** 県内：鳥取市（国府町，用瀬町，青谷町，河原町），倉吉市，大山町，八頭町。県外：関東（西部），中部，近畿，中国（東部），四国（東部）。

■**保護上の留意点**：本種は森林下の落ち葉の堆積中や朽ち木の下面に生息するので，自然林の保護と環境保全が必要である。また，生息地では大型で目立つので，採集圧による乱獲を慎みたい。

■**文献**：15, 31, 34.

執筆：湊 宏

モリヤギセル 柄眼目キセルガイ科
Mesophaedusa vasta moriyai (Kuroda & Taki, 1944)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



撮影：増田 修

■**選定理由**：本県は本種の分布のほぼ最東端域にあるが，その生息地，個体数とも少ない。

■**特徴**：貝殻は中型から大型（殻高27–33 mm，殻経7–8 mm）で堅固。螺層は11–12層。九州（五島，壱岐を含む）と四国に分布する原名亜種（オキギセル *M. v. vasta*）とは，貝殻内部の腔襞の数が少ないことや生殖器の形態の違いで識別される。卵生。

■**分布** 県内：南部町，江府町，大山町，倉吉市，三朝町。県外：中国地方，四国（西部）。

■**保護上の留意点**：本亜種は森林内の倒木や朽ち木，落ち葉の堆積地に生息しているので，生息する自然林の保護・保全が必要。本県における生息地が少なく，しかもそこでの生息個体数が少ないので，乱獲を慎みたい。

■**文献**：30, 34.

執筆：湊 宏

ホソヒメギセル 柄眼目キセルガイ科
Tyrannophaedusa (Aulacophaedusa) gracilispira (Moellendorff, 1882)

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



撮影：増田 修

■**選定理由**：本県では生息地が比較的多く確認されているが，いずれの生息地も局所的・散在的である。自然林内の朽ち木中の腐った屑に生息するために環境の変化に弱い種群と考えられるとともに個体数が少ない。

■**特徴**：貝殻は小型（殻高8–10 mm，殻経2–2.4 mm），薄質，細長い紡錘形で淡褐色～淡黄白色。殻口の上板右側の1個の刻みがある。月状襞を欠き，上腔襞と下腔襞の間に1–2個の腔襞がある。下軸板は殻口縁には現れない。

■**分布** 県内：日野町，江府町，大山町，琴浦町，三朝町，鳥取市，八頭町。県外：近畿，中国，四国（東部）。

■**保護上の留意点**：本種は自然度の高い社叢林などの古木の根元などの樹洞，朽ちた木や腐った木の屑の中に生息するので，このような森林環境の保護・保全が必要である。

■**文献**：1, 34.

執筆：湊 宏